第２次那須塩原市総合計画　第５回　審議会

開催年月日　：　令和４（2022）年７月15日（金）

開 催 時 間　：　１４時00分～１６時00分

開 催 場 所　：　那須塩原市役所　本庁舎　201・202会議室

委　員

No.	氏　　名	出欠	No.	氏　　名	出欠
1	飯　島　惠　子	○	13	平　井　正　美	○
2	市　村　典　子		14	鈴　木　耕　二	○
3	臼　居　芳　美		15	小　泉　秀　夫	
4	高　秀　正　人	○	16	藤　田　英　之	
5	大　島　三千三		17	三　浦　真　紀	
6	佐　藤　和　寿	○	18	三　田　妃路佳	○
7	岡　田　陽　介	○	19	室　越　礼　一	
8	齋　藤　　優	○	20	山　口　佳　子	○
9	佐　藤　幹　雄	○	21	篠　崎　剛　史	
10	田　中　　志		22	山　島　哲　夫	○
11	田　村　ひろみ		23	尾　又　正　志	
12	橋　本　秀　晴	○			

１　開会

２　あいさつ

３　議事

（１）後期基本計画案（初稿）について
（資料１,２について事務局説明）

【会長】
今回は初稿ですので、これから素案を8月８日に向けてまとめていく形になる。できるだけ色々なご意見をいただきたいが、事務局の説明について質問等があればお願いします。

【委員】
意見をくださいということでメールが届いたが、前もって意見を提出している。他の委員からの意見もあることと思いますので、まずその発表をしてほしい。

【会長】
意見提出の期限は22日までという案内である。提出期限は来週なので、来週の会議までにまとめるという予定になる。

【委員】
それでは提言する。基本構想の中の後期の計画ということだが、人が人として生きていくための人権のうちジェンダーがうたわれていない。ジェンダーというのは、生まれながらにして有しているものである。“ジェンダーフリー”というのをキーワードにして、様々な計画を立てていくわけだが、総合計画の中でもうたわないといけない。ジェンダーギャップ指数で皆さんもご存じの通り、我が国は164か国中116位である。これは先進国の中で最下位ということで、やはり人が生きていく中で誰もが生き生きと暮らすために基本構想の中でうたったほうが良いかと思う。どの計画を見ても感じることだが、学校の教育だけでは世の中は変わらない。社会変化への 100 年の手腕ということを考えれば、親子 3 代教育してようやく世の中が変わる。これはどこの国を見てもそうであり、北朝鮮でも変わらない。したがって基本構想の中で“ジェンダーレスの推進”といった文言をうたっていただければと思う。

【会長】
ジェンダーの問題は基本政策3―5にてすでに書いているが、男女共同参画社会の実現の一部ではなく独立した項目を設けてジェンダーフリーを実現するためにといったものとして基本構想の中に加えるということか。

【委員】
そうである。ここに書いてあるのは IT やインフラのことだけであり、人が人として生きていくための人

権問題にまで踏み込めていない。

【会長】
その辺は書き方の問題等があると思うが、事務局としてはどうか。

【事務局】
検討する。

【会長】
委員から上がった意見は大切だが、基本構想の中でどういった大きさで、どういったスケールで組み込んでいくか。
基本構想の中に組み込まれていないというのが問題であり、全体の流れもあると思うので検討してほしい。

【会長】
個別の部分は別として、全体的なものとして意見はあるか。

【委員】
基本計画の中にキーワードとなるものがいくつかあるが、縦の施策と、横の施策がごちゃまぜになっているのが気になる。縦の施策と横の施策をもう少し分離したうえで書いた方が良いように感じる。特に DX は全ての施策に影響を与えるのは間違いない。これは縦割りの施策、これは横の施策と進めていくのなら、もう少しかみ砕いたほうが良いように感じる。その上でデジタル以外の部分を見ていくと横だけの施策は少なく、従来の縦割り型組織を継続しているように見えてしまう。そういった従来の形を破壊するような横の施策を入れた方が流れ的には良いのではないか。

【会長】
実際にやろうと思うとなかなか難しい。個別に対応しなければいけないものが生まれるのもそうだが、デジタルの話は全ての施策に関係していて、人権に関する問題も全体の流れに影響するものである。そうしたものをどう表現していくか。確かにデジタルを縦割りで進めることは納得できない。人権の話も全体に関わるのにそういう風に分けてしまえば中々大変なことになってしまう。
事務局の方から何かあるか。

【事務局】
デジタルについては重点推進テーマと設定していて、いわゆる横の施策の部分にも置いているので見せ方を少し整理したい。

【会長】
最初の社会経済環境の変化や全体的な現状の課題というのは、全体だけでなく横向きの施策にもなっている。この辺の表現を理解してもらえないと、個別の政策も個別の政策で書くのが難しくなっ

てしまう。こういった社会経済環境の変化というのを現状の課題にも組み込んで、全体で議論がしやすいように整理しておく方が良いかもしれない。

これに関しては検討しておいてもらいたい。

【委員】

重点推進のテーマが「ひとそのもの」というよりも「環境」といった間接的なものになっている。先ほどから出ている縦割りや横串の話の中で、文章中では「誰もが生き生きと暮らすために」の中のキーワードで「地域共生社会」が入っている。厚労省における福祉全体では、地域包括ケアシステムという高齢者を中心としたものではなく、担い手が不足している中で地域共生社会にシフトしていっていると思うが、実際の施策の中では地域福祉計画や障害者福祉計画があり、昨年から包括的支援体制整備事業が始まっている。これは庁舎内の職員がこの5年間、横串で動いていかないといけない計画になっており、これが機能して市民誰一人取り残さず市民の力を活かして地域づくりを行っていく。そのあたりのことが全く出てきていないあたりが問題であるとともに、これからの魅力的なまちの肝になっているのではないかと思う。包括的支援体制の構築は栃木県でも 10 市町村程度しか進んでいない。そのあたりを含めていかがか。

【事務局】

地域共生社会は今後重要な課題になるところである。重点推進のテーマは具体的な取組というより考え方を示すものとして置かせていただいている。地域共生社会は3番のメインテーマになってくるところである。

【委員】

縦割りになっている部分がクロスしていくことでより強固なものになるうえ、隙間になっている部分も埋めることが出来る。

【会長】

総合計画では基本的な考え方を入れるのが重要であり、具体的な施策については順番を考えて様々な個別の計画に入れる。総合計画は市の最も中心に位置する計画であり、そこから様々な個別計画が作られるべきである。

【委員】

本計画は将来に向けて基本的な考え方を示す計画であるので、その先の目指す姿をしっかりと書き込むべきである。現状は今までの総合計画のスタイルと変わらないものになっており、今やっていることをまとめただけでこれまでと変わらないように感じる。その先の目指す姿をもう少し書き込んだ方が良いと思う。

【委員】

SDGs の観点で、ジェンダー平等に関する項目が非常に少ない。かえって SDGs と施策を照らし合わせない方がいいと思うくらいである。「○」がついている項目は男女共同参画を充実させるというと

ころであり、気を付けているということは分かるが、男女平等について意識するのであれば、子育て分野などにも取り入れるべきだと思う。子育てとなると従前では保育園の設計などハード面の充実は考えられているが、ソフト面では男性がもっと主体的に子育てに関わるという施策という意味では SDGs の本来の考え方に近づく。せっかく SDGs と施策を照らし合わせるのであれば、SDGs の平等という考え方と施策の考え方がきちんと擦り合わされるべきではないか。

【委員】

委員の発言に関連することだが、改正育休法が4月から施行され、父親も子育てに参加しやすくなっている。2030 年までの考え方として SDGs を取り入れるのは世の流れを汲んでおり非常に良いと思う。民間企業には SDGs について自分事のように捉えてもらうように醸成していっており、研修を依頼されるなど関心が高くなっている。最上位の計画を策定するにあたり、マインド面などソフト面において醸成していく必要があり、そういう施策を考えていくと良いと思う。

【副会長】

今、企業や地域団体においても開発目標を設定するなど SDGs について頑張って取り組んでいるところがあり、意識的には進んでいるのではないかと思うので、このままこの意識を推進していきたい。

【委員】

少子高齢化ということを前提にこれからのまちづくりを考えていくのか、それとも出生率が下がっている点に焦点を当てて、出生率を大きくしていくような施策の方向性に舵を取れないか。そこで育児や教育といった施策においても重視する環境ができるのではないか。

【会長】

少子化の原因は様々なところで議論されており、給料水準が低い、若い人が結婚を望まないなどある。子ども多く産んで育児を行うにはやはり行政の力というのは必要になっており、行政の支援は必要不可欠になっている。ただし、支援があってもうまくいかないのが現状であり、そもそも結婚を望まない人が増えているなどそういう傾向もある。

【委員】

医療福祉の業界でも人材不足である。医療福祉に従事する人は女性が多いため、そういう人をなんとか那須塩原市に来てもらって住み続けてもらうことが出来ればと思う。職場環境の改善ももちろんであるが、生活環境の改善も行い、那須塩原市で子育てしながら働いてもらうというような子育て環境を作っていく必要がある。

【委員】

教育に関して、「教育機会均等法」などの文言が全く出てきておらず、学校という教育の場でしか書かれていないのでこの辺りも盛り込んでほしい。何年も前から学ぶ場所は義務教育を行う学校だけではないと言われているのにこの計画には学校教育の充実しか書かれていない。真の意味で学ぶことを考えた際には『生涯学習』を指すと思われるが、子どもたちが学校以外の場所でも学べる環

境づくりといったことも盛り込めないだろうか。

【会長】

ここでは生涯学習と学校教育の二つがあると思う。学校教育と別の教育というようなものがあるのは分かったが、現段階でそれをどこまで具体的に書くことが出来るかというと難しい。少し将来的なものになると思う。

【委員】

キーワードで「学び続ける」などがあるので、学校ではない場所で学び続けられるような環境があればいいと思った。

【委員】

教育の中で障害者支援についてあまり触れられていないように感じた。発達障害の子ども等がいる現代で療養施設の拡充など、今後の那須塩原市を担う子どもたちの発達・教育に関することを入れた方がいいのではないか。

【事務局】

障害者支援については2つの項目でそれぞれ触れている。

【会長】

1か所にまとまっているのではなく、2か所にまたがっているということか。

【事務局】

そのとおりである。

【委員】

那須塩原市の取り組んでいる発達支援システムは他市にはなく独自のもので優れているという認識である。発達障害の早期発見から障害者の雇用までの一連の流れにもう少し夢が持てるような記述があれば良いと感じた。

【委員】

包括的、重層的というのは市民が主体的に参加してやってもらうということではない。そういう意味では少子高齢化というのは大前提になるのではないかと思う。しかし、高齢者だからといって受け身というわけではなく、高齢者がどんどん社会に参加してもらう必要がある。それがまちの元気を作っていくと思う。メインタイトルが「ひとがつながり　新しい力が湧きあがる」というのは漠然とした表現であるので人が動くのがイメージできるような形で表現されると良いと思う。

【会長】

「誰もが生き生きと暮らす」というのは多岐に関連するところになるので、事務局としても書き方が非

常に難しい。最初の課題のところで包括的に書いていかないと難しいところになる。

【委員】
要望を一点させていただきたい。農業については、那須塩原市はバランスよく生産されている。その中で、耕畜連携のみが他市と比べて遅れているように思うので、それを記載していただくようにお願いしたい。

【事務局】
関係部局と調整する。

【委員】
耕種で出た飼料を畜産で、畜産で出た堆肥を耕種で活用するのが重要である。近年、飼料の高騰が続いているので耕畜連携についてもよろしくお願いしたい。

【会長】
突然になるが、今の話について副市長いかがか。

【副市長】
耕畜連携は重要である。本来、農作と畜産は連携されるものであり、現在分業化されているものの、もう一度、農業のいいところを出すためには耕畜連携していく必要はある。

【委員】
社会福祉の中でも農福連携という言葉がある。SDGs で包含できると思う。

【会長】
計画でも述べられているが、那須塩原市は農業と畜産業が盛んなところである。

【委員】
農業というのは稲作、畑作、畜産が含まれている。

【会長】
那須塩原市は高原のイメージがあり、美味しい牛乳があって農業もあって、とても美味しい食べ物がいっぱいあるところなのだが、食べ物が魅力的であるというのがなかなか出てきていない。

【委員】
なかなか農協の方でも PR が上手ではないため、課題に感じている。

【会長】
最初の総合計画の際にも言ったが、那須塩原市の牛乳を朝に東京でサラリーマンに売るだけでも

PR になる。
　那須塩原のイメージを考えた際に「美味しい食べ物がある」というイメージをみんなが共通認識を持ってもらって、「だから那須塩原市に住みたい」と思えるようなまちにするべきである。農業と観光は連携するものである。

【委員】
　ぜひ、市と連携して色々とやらせていただきたい。

【委員】
　一般市民から見ると理想論ではあるが、この5年間で果たして実現可能なのかと言うとどうなのかと疑問に思うところがある。先ほど会長がおっしゃっていたようにもっと那須塩原市らしさを前面に出して、目標やキーワードに踏み込んで設定した方が良いのではないか。

【会長】
　具体的に理想を書いているが、それがこの5年間で必ず実現するわけではない。今言ったように那須塩原市のイメージが伝わるようにした方がいい。

【委員】
　牛乳の話に関連して、健康づくり推進のために、フレイル対策として牛乳やチーズを食べる企画など行えば那須塩原市らしさが出るのではないか。

【副会長】
　那須塩原市では「ミルクで乾杯」という企画をやっていた。また復活してもらえればいいと思った。

【会長】
　私も毎日牛乳かヨーグルトなど乳製品を摂るようにしており、おかげで元気である。

【委員】
　残念なことに地震による福島第一原発事故の風評被害というのはまだある。スーパーで那須塩原市産の牛乳は買わないとためらう人もいる。そこを行政として早めに手を打たないといけない。

【会長】
　風評被害はさすがにそろそろなくなっているのではないか。とにかく那須塩原市に「美味しい」というイメージの記載がないので、全体的に総合計画の中で打ち出していくべきである。

【委員】
　先ほど述べられたフレイル対策は高齢者自らが努力し、牛乳を飲むなどすれば良いと思う。健康づくりにおいては、市民が主体となってもらえればこれからのまちづくりとしては良いと思う。

【委員】
高齢者、シニアの働き口としてスタートアップ支援をする際に、県北地方も東京通勤圏なので、東京のメーカー企業などモノづくり企業に勤めていた OB の方は少なくない。そういう方は知識・見識がすごくあり、スタートアップの方たちはそういう人たちを求めているので、うまくマッチングをするとスタートアップの方や若い経営者たちから「非常に役に立っています」という声をもらえている。そのようなプラットフォームがあれば、よろず相談所のようなイメージになるかもしれないが、モノづくりなどに貢献できるのではないか。

【委員】
確かに那須塩原市にはいろいろな方が埋もれているなと言う印象を受ける。従来のシルバー人材センター経由ではなく、今おっしゃったプラットフォーム経由で昔の経験等が生きると面白いと思う。

【会長】
確かに那須塩原市には別荘などあり様々な人がいる。

【委員】
日立製作所の OB の方が若い会社に入って様々なアイデアを出したという例があった。

【会長】
社会に貢献できるような場を作っていくことは重要である。

【副会長】
60 歳を過ぎた OB の方が部長という形でいろいろ活躍するなど、活躍する場があれば良いと思う。那須塩原市として創業支援などにおいても力を入れており、商工会などに紹介していただければ活躍できると思う。

【会長】
市役所や県庁は 60 歳で定年だが考えられない。

【委員】
介護保険料も少なくなっている。企業が 70 歳近くまで雇い続けるため、地域の役員の担い手がいなくなっている。

【会長】
人が生き生きと暮らすという観点ではいいまちだと思う。行政としてできる範囲で,いろいろな人が活躍できる場所を提供することが重要である。

【委員】
そういう街を作っているのは市民なので、行政はそのような市民にインセンティブなど支援をしてい

ただきたい。

【会長】
行政はそういう市民たちをバックアップしていく必要がある。

【委員】
自分もスタートアップ出身だが、那須塩原市で創業しようという気が起こらない。結局、スタートアップする際には資金を集める必要があるが那須塩原市ではそれが集まらない。したがって東京に出ることになってしまい那須で創業する意義を失ってしまう。那須塩原市で起業する理由を行政が支援してあげる必要がある。このあたり、例えば福岡では2年間家賃を無料にするなどすごく優遇されており進んでいる。

【会長】
金銭的な面で勝負するのはあまり得策であるとは思わない。那須塩原らしさで勝負していきたい。

【委員】
DX が重点推進テーマになっているが、那須塩原市の DX の流れやどのように生かしていくのか、実際どのようなことが期待できるのか。

【委員】
DX の主役は市民、行政職員、その周辺の人々になる。市民はデジタル化の恩恵を受けてマイナンバーカードなどどこからでも自分の情報を得ることが出来る仕組みやデジタルで仕事ができるような土台が出来るのではないか。行政職員は、今この会議など集まらないと仕事が出来ないという環境からオンライン化などや、那須塩原市の魅力を発信し、現地に来なくても魅力を味わってお金を落としてもらうというような仕組みづくりができるのではないか。
子育てなどに関しても DX が影響してくると思う。

【委員】
デジタルの関連で話すと、私もネット関係の仕事をしているので、市内で病院などのついでにどこかで仕事をしたいと思うことはあるが、Wi-Fi が整備されている場所が少ないうえ、すぐにパソコンを開いて仕事をしていいというような場所も少ないように感じる。そういう面でデジタルの整備が整っていくと5年後住みやすくなるように思う。
あと、乳製品のところで思ったのが、一般市民として市外の友人等に「那須塩原市の生乳生産量が1位である」ことを説明すると驚かれるというのが実際のところで、他の特産品を紹介しても「知らない」と言われるのが一般的である。したがって魅力をどの辺まで認知させるかを目標にすると良いのではないか。

【会長】
他市のように那須塩原市もなにか大きく打ち出していく必要がある。市民に浸透していないと全国

に浸透するわけがない。そういう意味で市民への浸透も重要になってくる。

【副会長】

那須塩原市のイメージカラーは何色だろうか。市全体である程度統一して那須塩原市の色を PR していきたい。

【委員】

那須塩原市はヤングケアラーに関しては先進的であり、ヤングケアラー協議会などあり、いろいろな自治会からも講演会を依頼されるなどしている。この中にヤングケアラーの支援を盛り込んでいただきたい。

もう一点、財政基盤について、行政職員の方はいろいろな形でコストを捻出していると思うが、売名権など反対意見を集めて市長に嘆願したものもある。やはり市民あってのものであるので市民の意見をないがしろにした施策はやめていただきたい。

【会長】

今日は全体の議論で、また素案として出てくる。今日話すことが出来なかった意見などは後日提出していただきたい。それを踏まえて修正し、次回また議論したいと思う。

ここまでに関して副市長何かあるか。

【副市長】

委員の話を聞いて DX や福祉の重層的支援など様々な分野にわたる意見がでたが、総合計画は分野ごとに分けて書かれるものの本来は横串的に網羅するべきものでなければならない。その辺を踏まえて策定したいと考えている。もう一点、「那須塩原市らしい」という話があったが、随所にキーワードなどで那須塩原市らしさを出していければ良いと思っている。

【会長】

事務局のとりまとめの結果、次回また議論していただきたい。

（２）その他

（資料 3 について事務局説明）

【会長】

スケジュール等について意見のある方はいらっしゃるか。

【委員】

会議資料が届くのが遅い。なるべく早く持ってきていただきたい。

【会長】

おっしゃることは分かるが、資料を作るのは大変であり出来るだけ早く送付するようにするが、こち

らも一生懸命であるのでよろしくお願いしたい。

4　閉会